

## 平成 30 年度 河川財団 研究発表会（近畿事務所）の報告

近畿事務所（大阪）では、平成 30 年 11 月 28 日（水）に、平成 30 年度河川財団研究発表会（近畿事務所）を開催しました。

発表は、河川基金助成事業成果 7 題、近畿事務所の受託成果 1 題と特別講演 1 題でした。

河川基金助成事業成果 98 題の中から、時代を反映し、近畿に関する研究の中から『巨椋池を活用した淀川流域の治水手法と生態系創出に関する研究』『統廃合前の小学校近傍における川と人との関わりの解明』『那賀川河口代償干潟における底生生物加入・回復過程の中期モニタリング調査』『河畔域を活用した環境配慮型流木捕捉システムの開発』『琵琶湖流入河川におけるマイクロプラスチックの負荷源の推定および含有微量有害汚染物質の挙動調査』『河川堤防の耐高水・耐震安全性評価技術の向上』『河道内樹木の生育抑制による治水安全の確保』計 7 題の研究成果を発表していただきました。

特別講演は、京都大学防災研究所 山口 弘誠 准教授をお招きし、『豪雨の予兆を捉える』のご講演をいただきました。

国、地方自治体、企業、研究機関などから多数の方が参加され、どの発表や講演にも活発な質問やコメントがあり、盛大のうちに閉会しました。

発表者や講師の方々、ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



講演風景



会場からの意見

（担当：近畿事務所）